



しいい  
なみり

い！

の  
素晴  
紅魔族  
を  
らし



**全ページフルカラー**  
**基本CGなんと20枚!**  
**本編73枚**  
**文字無し差分73枚**  
**合計146枚**

るさん



願いを叶えられないと  
死んでしまおう魔道具を  
つけてしまったカ●マ。。。



**仲間を助けるために2人の少女が  
協力してくれることに!**

**しかしカ●マの願い事とは…**



とってもエッチなものだった!?

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡



**2人はカ●マの願いを叶えることができるのか!?**



**容赦ないクリ責め！**

**仲間が聞いているのに  
子宮までガン突き！**







大切な仲間を助けるために  
2人の少女が落ちていく——。







るん

どうも、カズマです。

みんなで来たウイズの魔法道具屋にて  
床に転がっていたチョーカーを  
何気なくつけたら

自分の願いを叶えられないと

四日後には死んでしまう  
とんでもない魔道具でした。

あほかー!!





うう…このままでは死んでしまう。  
そこでチヨーカーをはずすために  
みんなが協力して  
俺の願いを叶えようという話になった。

私たちに  
任せてくださいよ。

何でも言ってください。

いや〜もつべきものは仲間だなあ。  
さて、なにをしてもらおうか…？



うーん眼福眼福♪

相変わらず変態ですか！  
変態ですわね！  
こんな服の一体なにがいいんですか!?

コスプレがカズマさんの  
願いなんですかあ...  
願いなんで...  
恥ずかしい...  
チョーカーははずれそうですか？

はずれないなあ。  
どうやらこれは俺の  
心からの願いではなかつたのかもしれない。  
2人とも...すまない...  
だ、大丈夫ですよ！

(そんなことよりもあそこが勃つてきた)  
しようがない…2人とも、これを舐めてくれ。

はあ!?

どん!!

え、えええ!?





大きい…。  
こんなものなっ舐められるわけないでしょ!!  
汚い!!  
絶対に無理!

ムフムフ

めぐみんがんばろう!  
カズマさんのチョーカーがはずれないと  
死んじゃうんだより?  
私舐めます…!!  
めぐみんができなくても私にはできるっ…!!

わ、私！なめられますよ！！  
カズマさんの生死が  
かかってますからね！！

へえ！？ゆんゆん！？

ドキ  
ドキ

!!?



ハアム!  
ムグムグ

(ううっこんな大きな口の口に入らない……!  
それになんかしよっぱいしくさい……)

じゅぽい  
じゅぽい

(おお……口の中ちいさ……)

ゆんゆんはもつと激しく音たててやってくれたなあ。

ウグツ……ジュツポジュツポジュポ……  
ほ、ひょうでしゅか?

はッ  
はッ  
はッ

ああ、気持ちいいよ……。  
(対抗心煽ればなんでもするなあw)





三日目

欲望のままにオバカっ娘二人に野球拳させてみた。

ふたりともがんばれー(棒)

(対抗心を煽ればなんでもやるからなあこいつらは。)

じゃーんけーん、ポンツ!

な…!?  
この紅魔族随一のエリートである私が負けるとは…!?

はははっ。  
その称号はどうやら私のものだったようねめぐみん!  
くっ…。



まだまだ勝負はこれからですよっ！

（うわあめぐみんの乳首…きれいなピンク色…）

じゃーんけーん、ポンッ！



ふう…危なかった…！  
しかしやはり私が勝つんですね！  
さあさあゆんゆん脱ぎなさい！  
ふええ!!





うう~~~~!!

ちなみに勝負は全裸になるまでだぞ〜

ええーっ!!?

あいこーでしよ!  
あいこーでしよ!

(とりあえずあいこを続けさせれば……)  
(裸になるのだけは避けれる……!)



ふあっ!!



しよ!  
はい俺の勝ち。



ずっとあいこのままにして時間稼ぎしてただろ。  
二人とも勝負から逃げていたよね？  
それじゃだめだよ？  
罰として二人ともパンツ脱いで。

うう…確かに勝負からは逃げていました。  
すみません…。  
脱ぎます…。  
ゆんゆん!?



脱ぎました…。

ゆんゆんは脱いだけどもめぐみんはどうするの？

わ…私だって!!脱げますよ!

うう、はずかしい。

すばらしい!

君たちの俺に対する愛を感じたよ。

(つるつるおまんこ丸出しでかわいいなあ。)

うう…

は…はい…。

はあ…。

つるん♡  
つるん♡

つるん♡



でも野球拳の勝負がつかなかっただなあ。

ちよつと…おしり揉まないでください…!!

このままじゃどつちが紅魔族のエリートかわつかないな!

そんなの私にきまつてるじゃないですか!

でも俺にじゃんけんて負けたよね。

うっ…。

じゃあ次は我慢比べで勝負する?

我慢比べ…?

よくわかりませんがここまできたら  
なんであるとうけてたります!

え…ええ〜!

うう…私だつてえ負けませんよ!

覚悟しなさいめぐみん!

もみもみ  
もみもみ

我慢比べ

では今から君たちには  
それぞれこの牛乳浣腸を注入していきます。  
我慢できずに先に漏らしたほうが負けです。

かかか、かんちょく!?



ぷすつと注入していきまーす♪  
力抜けよ〜？

はあ

はあ

びびん

ふん  
ふん  
ふん

やだっなにこれ冷たいっ!!

ひああんっ。

ああっどんどんはいっってくる…お腹がふくらんでいく!

く…苦しい…!

がんばれよー♪

ちゃ  
らん

いっいやあっいやだあっ!

白い牛乳がどんどんおしりからはいってるぞー♪

ちゃ  
らん

よくがんばったな！全部入ったぞ。  
あとは二人とも漏らさないように  
しっかりおしりの穴に力入れてしめるんだ。

はあ……はあ……  
はあ……はあ……  
注射器抜くぞ。

ちゅぽんっ  
はあっああん……

お腹がぱんぱんつくくるしいですう……

ぐぎゃるる

ぐんぐん

はあ……はあ……ふうっ……

妊娠してるみたいにお腹が膨らんでるなあ。

やだあ……はあ……はあ……くるしい……

2人ともけっこうギリギリの状態か？

ぎ……ぎりぎりです!!

いま気持ちよくしてやるからな？

へっ？





いやっ見ないでっ出ますっ出ちゃうっうっうっうあああん!!!  
あっ...あっあああ♡♡♡なにこれえきもちいいいい♡♡♡

まへん

あっあはあ♡♡♡  
出ますっめぐみん一緒に  
気持ちよくなりたいつ♡  
ああん!♡

ぶりゆりゆ  
ぶびっぶびっぶぽっぶぽっ  
恥ずかしい!!! いやっ♡♡

下品な音だしてけっから牛乳噴射しちゃったねえ。

音聞かないでくださいいつ♡  
ああんっだめえっ全部でるうう!

びゅんびゅんびゅん

この勝負  
2人同時に漏らしちゃったのでまたも引き分けです。  
ほーんと紅魔族ってのは情けないなあ。  
そ...そんなあつ。  
う...うわあーん!



カズマにさんざん遊ばれつくした2人は、  
勝敗が決まらなかった落胆と疲労のなか  
それぞれの部屋にもどったのであった。



トントントン(扉を叩く音)  
(ん?こんな時間に誰だろうか丁寧なノックまでして……)  
「どうぞー!」  
ガチャ

ガチャ



「お、おじやまします……。」  
「ゆんゆんっ!」  
「そ、その迷惑だったらすみません!!!」  
「ゆんゆんじゃないか。  
こんな遅くにどーしたんだ?」

「あの…野球拳の勝負で…し、勝敗がっ！  
ついてないの…」

「うん？」  
「だから…、かずまさんに勝ち負けを  
決めてもらおうと思ひまして…」

（待て、これはハニートラップか何かか？

そんな感じにも見えないし…

というかトラップだったらむしろそれに

乗つかれば俺には何の責任もなくなる…か！

「なるほどなるほど。」

つまりはめぐみんに勝つための個人トレーニングの

コーチをしてほしいって事だな。

よしよし、よく分かった！」

「そっそうなんです…!!!」

是非お願いします！」

「しかしわかってるとは思うが

俺のトレーニングは厳しいぞ？

途中で投げ出すとかはもつての外だ。

できるかな？」

「できます!!!」

「よし！じやあまずおっぱいを見せなさる」  
「え!?おっぱい?」



「そうだ。おっぱいを出すんだ。」  
「それはちよつと……。」  
「おいおいなんだ、ゆんゆん。」  
「さっそく諦めるのか?」  
「うっ……分かりました」

「うーん...やはりでかい。  
やっぱりこのお胸さんは  
めぐみなんなんかとはくらべものにはならなげよな。」  
「あんっ...あ、ありがとうございます！」

♡モニユ♡

「なんてずっしりとした重み。  
しかしこれだけの大きさ...  
胸筋にかなり負担がかかっている。  
まずはトレーニングの前に準備運動からいっぞ。」  
「あ...は、はい！」



「よし、しばらくこの体勢をキープだ」  
「これ…、準備運動に…なってますか？んんっ…♡」  
「もちろんだ。気を引き締めるよ。」  
「たとえこんなふうにも乳首をこりこりされても  
おれない精神力をみにつけるんだ。」  
こりこりこりこり…

「ああんっ…♡  
は、はい…！」

ムムムム

ムムムム

ムムムム

ムムムム

「まさか気持ちよくなってるのか？」

「ちがっ♡」

「声がうわずってるぞ？」

「ごめんなさいっ！」

「がんばります…。」

「こりこりし続けていたらだんだん乳首が固くなってきたぞ。」

「固い所はちゃんとはぐさないよ。」

「んんっ!!?♡あはあっ♡」

「おかしいなあ。」

「どんどん固くなってきた。」

「こうなったらしやぶって。」

「柔らかくしてあげよう。」

「ふえっ♡ ああっ♡」

おんっ

んんん

「だめ〜!♡  
ずっとこりこりされてびんびんになった胸…  
そんなに舐められたら  
へんな声が我慢できなくなっちゃうよ〜!♡♡」

「筋肉はなるべくやわらかいほうがいいからな。」  
ちゅぱっちゅぱっつれるるるびんびんれるるる

「ふああっ♡♡  
そこはあ…きんにくじゃ…なひいい♡♡」

「ここは筋肉じゃない？  
じゃあここはなんなのかな？」

「ええっ……えっ……」

れろ

れろれろ

「知ってるよね？」

「僕が舐めてる部分の名前言うって？」

「んひっ♡♡♡♡♡」

「ちゅちゅびですっ！」

「ちゅびですうう♡♡♡」

「乳首がどうしてたって？」

「ちゅびをっ♡♡♡」

「そんなに舐められるとお♡

「気持ちよすぎて

「声が我慢できまじえん♡♡♡」

「よく言えました。」

「ご褒美にもっと舐めてあげるね。」

「くひいっ♡♡♡」

「んーおいしい。」

「綺麗なピンク色だし。」

「はあッ、はア……♡♡♡」

「揉み応え抜群だしポリリユームも最高だよ。」

「あり……ありがとうございませいゆ……あッ……ああん……♡♡♡」

ドクドク  
ドクドク

（そういういえばこの時間アクア達が散歩にいくっていつてたな…）

ニルルニルル

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

キョー

「ふ〜…よし次はベランダでトレーニングだ。満点の星空でやるトレーニングはきもちいいぞ。」

「は、はいいい……。」



「じゃあそこに手をついて  
おしりつきだそうか。」  
「は、はずかしいです…  
こうですか？」  
「いいぞいいぞ！  
その姿勢をキープだ。」

パリン♡

トキトキ…

「お…？  
アクアたちがしたにいますぞ。  
丁度いい。ゆんゆん挨拶したら？」  
「え、うそ!? でもいまこんな恰好で…っ。」



「ああアアアあああっ!!♡♡♡♡」  
「あれ?そんなアへ顔  
しちゃって大丈夫?」  
ズツチュズチュズツチュズツチュ  
「ひい、いつ、いいい、  
いやあ……♡♡」  
「ほら、下にいる二人に  
挨拶して?」

「ハアツ、アツ……こ、声が……でましえん……♡」  
「しようがないな。まったく。」

ズチュヰ  
ズチュヰ  
ズチュヰ



「おーいアクアー!!  
ダクネスー!!」

「ん?」

「あれってカズマとゆんゆんじゃない?」

「そんなところで何やってるんだー?」

「ゆんゆんに特別授業してるんだよ」

「特別授業?」

「今日あれだけやっついて...まだ遊ぶつもりかしら?」

「ゆんゆーん大丈夫ー?」

「ヒクシ」

「ドキ」

「ドキ」

「うそそうそ!? どうしよう!!  
こんなことしてるなんて  
絶対にバレたくない...!!  
な、なんとかやりすぎさないと...」

「たゆん」

「??」



「おい、聞かれてるよゆんゆん。ちやんと返事したら?」

「は……はいっ」

「あつ、あの、だ、大丈夫…、れすううう……!」

「あれ?まんこが締まったぞ。興奮してるのかな?」

「ちっちがっ…違いますっ。

(やめてっそんなに激しく突かないで……!)  
はあっ…ああんっ……!」

「なんか…だ、だいじょうぶじゃなさそう……?  
ちよっとー!ほんとに大丈夫なのー?」  
「カズマたちはなにをしているんだ。まさか、セックス!?」





「あーあー、今の間に何回イってたんだ？  
まったたく…これじゃあ全然トレーニングに  
なっていないじゃないか。」  
「はあ…♡はあ…♡♡  
す、すみましえん…」

ムワァ…

ムワァ

はあ

はあ

「よし次、片足持ち上げて。」

「え…？」

「こ、こうですか…？」

「うーんいい眺め。」

「このまままた入れるぞ。」

「ま、また…っ♡待って、あ、あわあ…っ」



「あひいいいッ!!!♡♡♡♡」

「こっちの体勢も気持ちいいか?」

「ひいい♡これ♡」

「きもちいい♡ですウ!♡♡♡」

「そんなに情けない声で喘いで  
まるで家畜みたいだな。」

「そうだゆんゆん、  
友達にはなれないけど

「俺専用の家畜にならなれるよ?」

「ゆんゆんはブタさんかな?」

「かちくう?♡はいっ♡」

「ブタでしゅう♡」

「ゆんゆんはブタさんに

「なりゆましゅう!!!♡♡」

ビク

ビク

「いい子だ。ブタなら妊娠しないよね?」

「中に出すからな?」

「ふええっ!!」

あんあん

ブルンブルン

パンパン

パンパン

ブシューウウ

「ブタが人間様に逆らうの?」

「いっ、いえッ」

「ちゃんと精子くださいって  
ブタらしくお願いしてみな」

「ひ、ひい」

「ほらはやく」

パンっパンっパンっパンっ

「ひい、はひイイッ!♡♡♡

せ、せえしくだしやあ伊ッ!♡♡♡

「中に出すからな、いけっ!!」

びゆるるるるるるる!!

「うわぁ、

ほんっ  
ほんっ

ビクッ

ビクッ

は...♡...♡

は...♡...♡

「ふあああッ!♡♡♡

精子いっぱい中にだされてイってましゅうウッ!♡♡♡

子宮きもちいい!♡♡♡気持ちいいです!!♡♡♡

精子で子宮イってましゅうウウツツ!♡♡♡♡♡♡♡



「いっ、いえッ」

「いっ、いえッ」

「いっ、いえッ」

「いっ、いえッ」

「はあ……♡♡♡はあ……♡♡♡はああ……すごい……♡♡♡」  
「気持ちよかったよゆんゆん。足ひらいて  
中出しされた精子ちゃんを見せて。」

「はあ♡はあ♡ああん……♡♡♡」  
「うわあすごい。まんこから溢れて精子が  
ふきだしちゃってるよ。」

「は、はずかしい……見ないでください♡♡♡  
こ……これで……私……めぐみんに勝てますかあ……♡」

（あ……トレーニングってこと忘れてた。  
まあいいや、適当にごまかしとくか……）

「どうだろう、ゆんゆんはブタさんになっちゃったから  
厳しいかなー。」

「そ、そんなあ!？」

「お尻叩いてあげるからブタらしく鳴いてごらん?」  
「ふええ……ふ、ぶぎい……♡」

ブルブル

「あひい!♡♡♡」  
「あ、あゆんゆん、お尻叩くだけで感じるようになっ  
ちゃったなあ。どんどん精子がまんこからこぼれてくるよ。  
ブタにはもつたいない量だね。」

「も…もっとお…」

「なに？」

「もっとおしり叩いてえっ♡♡♡」

「ばちんっばちんっ」

「はあん♡♡ありがとうございませしゅっ♡♡♡」

「これからはこの家で俺専用の家畜として

みんなと一緒に生活しようか。そしたらめぐみんなにも

勝てるかもしれないよ？」

「…!!ほんとしてしゅかあ!はひっがんばりませしゅ♡♡♡」

「さあ挨拶だよ。ブタとしての挨拶。ほら。」

「ばちんっ」

「ぶ…ぶぎい♡♡ぶたでしゅ♡♡♡」

ゆんゆんはこれからカズマさんのかちくですう!♡  
よろしくおねがいませしゅ♡♡♡

はあ

はあ

はあ

はあ

ばちん

ばちん

「よくできたね。  
お尻叩いてあげるからね。」  
「あんっ♡あんっ♡ありがとうございますう!♡♡♡」







みんなでお風呂に入る。  
それもカズマの願いの一つであった。  
しかしアクアが水の女神としての力を使うと  
地中から湧き上がった天然温泉がかずまのアナルに直撃。  
しばし悶絶していたのであった。



「あの、大丈夫ですか…?」  
「チョーカーで死ぬ前にお尻で死んだかと思いましたがよ。」  
「ほんとだよ! もっと労わってくれよ…。」  
「まあ感じていたようにも見えましたが…。それで、  
なんで私だけ呼び止められてるんですか。  
もうみんな上がりましたけど?」

「俺は別に〜みんながいても全然構わないんだけど〜めぐみんが困るのかな〜って。確かさっきぼくの股間みて顔真っ赤になってたよねえ?」  
「な!?! な、なってないですよ!」  
お風呂場で長い事いたからあ〜そう、のぼせたんですよ!  
それはカズマの勘違いですよ〜。」「あははなんだそうかあ。勘違いかあ…ってことはもう1回見たとしてもめぐみんは顔が赤くなったり、ましてやあそこが濡れちゃったりするなんて事ないですよねえ?」



「はあああああ?」  
そんなわけないじゃないですか!  
カズマの租チンくらいもう見慣れてますから!」



!?

ビクッ

おちガッ

「ほうほう、じゃあ確かめさせてもらおう。」  
「ひゃっ、きゃあああああ!!どこ触ってるんですかあ!!」  
「おまんこだよ?」  
「はつきり言わないでください!」



「ってあれえ〜!? なんか濡れてるなあ?」  
「このちっちゃくたつたクリトリスはなんだあ?」  
「うっ……あっ……やめ……っ。こっ、これはっ……ッ。」  
「顔も真っ赤になってるぞ。」  
「もも、もう、のぼせちゃったから!」  
「はは……か、体が変になってるんですよ! はは……んん……!」  
「コリコリするとぬるぬるになってきたぞ?」  
「い……いやあっ……。」

ふんふん  
ふんふん  
ふんふん〜……



「大人のめぐみんはこのぬるぬるになったおまんこに  
チンポを入れても感じたりしないよね？」

「はい……えっ？いいいあー！！  
な、なにいつてるんですか!!?  
えっ……入れるって……ま、まじですか!!」

「うんまじだよ。」  
「う……。」

おちがッ  
おちがッ

こりっ  
こりっ

「ほらほら？ どうなののお？」

「はあっ…さ、さすがに入れるのは……。」

「そっかあ残念だ。」

ちなみにゆんゆんにはすでに入れちゃったよ

「えっ!!? 何でですか!!?

さ、最低じゃないですか、最低の変態ですね!!

「変態く? だってめぐみんはゆんゆんより大人なんですよ？」

ぴんぴん  
おちがっ  
おちがっ

ちんぽをおまんこに入れたくらいで変態なんて騒ぐような子供じゃないよね？」

「ぐ…うぬぬ…そ、そうですよ！」

私は…ゆんゆんより大人ですからね……？」

「だよね。さすがや大人のめぐみんだ。じゃあおねだりしてごらん。」

…

「……おねだり?」

「おまんこ広げながら

「かずまさんの大人のおちんちんを

子供まんこにいれてください〜』って言うって。」

「ひええっ……!!」

「ほら早く。ほしいんでしょチンポ。

こんななままんこぬるぬるにしてつらいよね?」

(グチュグチュ)(ちんこをまんこにこすりつける音)

「はあっ……♡」

マパマン♡

ぐちゃ



「カ、カズマのおちんちん…」

私のおまんこに…  
いっ…いれてくださる…!!」

きゃん♡

むわぁ…

「よく言えました。  
ご褒美にいれてあげるからね。」  
「あっ……んんん……!! はあ……♡♡♡」

ビクビク

ちゅっ♡♡

「すごいよめぐみん…きつつきつだよ中…。」  
（ひゃあああ！カズマのおちんちんが…  
おちんちんがはいってる！  
体の中がおちんちんで  
いっぱいになってる感じがする〜！）  
「ゆっくり動かしてあげる。」  
「えっ…？うごかす…？」

んん…



「あっ…おっ…おおっ…♡」  
「あれ？ちよつと動かしたただけでイっちゃった？」  
「…いい、イッてないですよ…!!」  
「フリをした…だけです…よっ。」  
「本当？もつと動かすよ？」  
「え、んんっああっ…はああっ…♡♡」

は…♡♡♡

は…!

は…♡

は…!

びび

メロメ

メロ



ビクッ  
ビクッ  
ビクッ

♡♡♡♡♡

ぴた=...

「あれー？ まだあの二人お風呂入ってんのー？」  
「そうなのか？ おーい二人ともー」

（アクアとダクネスが来ちゃい…ますっ…よ…！！  
やばいです…！！一回とまっ…てえ…。）

（あれ？どうしたためぐみん。さっきより中がしまりだしたぞ）  
（やっやめてっ動かないで！）

イッ…みんなの前で…やアッ…♡♡）

（しょうがないな、腰動かすのやめてあげるから  
ちゃんとアクアとダクネスに返事して）

きんちゃん♡

ドキドキ...

はぁ  
はぁ

...

「だあ、だいじょぶれす！  
もう、あがるところれすよおー！」  
「長風呂も程ほどになー！」  
「ねえねえあの二人…まさか  
エロいことしてるんじゃない？」  
「えっそ、そうなのか!? おっおい!! カズマー！」  
「なにいつてんだ。変態もほどほどにしておけよー。」  
「きやうつ。変態…♥」  
「もうダクネス何感じてんのよ…ってか  
ほんとにだいじょぶ？」  
めぐみんー？」

はちゅっ

はちゅっ



ビクッ

ぽちゅっ

ぽちゅっ

んんん  
んんん

んんん

おちゅっ  
おちゅっ

んんん  
んんん

おちゅっ  
おちゅっ

んんん

んんん

「ええ？？なにー？」

ぽちゅっ

んんん

んんん

ぽちゅっ

（…ああん…ダメツ♡♡イクウウウツツ♡♡♡）

（呼ばれてるよ、ちゃんと返事してね）

（ア…あっ…なんでっ腰うご…かすんです…はああッ♡）

（はやく返事しないと…ばれるよ…）  
「アクア…だいじよぶ…です…よ…」

んんん

んんん

ぽちゅっ



ガッガッ

...

...

キゅん♡キゅん♡

びゅー♡

「だいじょぶだよ。めぐみんお風呂きもちいいってさー!」  
「あんたためぐみんになんかしてんじやないのー?」  
「カズマ! めぐみんをいじめるなら私が代わりに!」  
「ダクネス... はあ。もうバカ言っでないで行くわよ。」

(...なんとか行つたみたいだな。)  
「はあ... はあ...、いっちゃいました...。」♡♡

フニャ





「よいしょつと。」  
「ふえっ!? だめっ…あっ…もうイツ、たのに…!!!」  
「俺がまだイツてないからね。」

# メスパシ!!

「おっ♥♥おっ♥♥いま♥♥いったのにっ♥♥」  
「この姿勢すごい奥まで突けるわ…」  
「どうめぐみん、子宮に俺のチンコ届いてるでしょ?」  
「子宮口がすいついてきてるよ…。」  
「いっわないれえ!♥おちんぽ奥まで届いてしゅっ…しゅごいですう…!♥」  
「さっきいったばかりなのに…んおっ!♥♥」

おん

びゅ

おん

おん

おん

おん

「いやあ……♡あひっ……♡」

「やばいよめぐみんの中、

きつきつのぬるっぬるで締まりまくって

気持ちいいよお〜。」

「はっはひっはひっ♡しゅごっちんぽっしゅごっちん……♡」

「ああ〜気持ちいい……。でそう。

精子でそうだめぐみん。出すよ。」

「はへっ!!?…なっ中に…!!?

中には出さないとすよね?」

へっ……?」





「いっく...っ!」  
「えっ中っああ!♡駄目っ♡♡  
イっくう...イグウウウウウウウウ!!♡♡♡♡」

ド  
ン  
ッ  
ッ







「ああ…めぐみんの  
きつきつロリマンコ最高…。」  
「はあ…はあ…また、イツちゃいました…。  
これで、私大人になれましたか?」

オキッ♡

オキッ♡

オキッ♡



「そうだね。  
これから俺の精子  
受け止めてくれたらね…。」  
「なっ…!!?  
た、たまになら…、  
いいですよ…?」

「あれ、チヨーカーが外れてる。」  
「やつ、やつぱり変態……」

チキーン♡

チキーン♡

チキーン♡

チキーン♡

チキーン♡

（みんなには適当に  
癒されたから取れたって事にして  
ごまかしておこう……。）



完







「この素晴らしい紅魔族を  
いいなりに！」

・ サークル名 / PN  
ゆいぢるし

2023. 5. 28

・ 背景素材  
みにくる背景素材集様



制作に約2年かかっているのぞ。  
(けしてサボら22年かかたわけじゃないんだからね、!!!)  
絵柄が変わってすみません...。  
お楽しみにいただければ幸いです!!  
ゆいぢるしより

支那大女子









とん!!

4-2





























うっら...

はー

GOM20

GOM20



もろみ





ちゅんちゅん

はぁ

はぁ

ちゅんちゅん

ちゅんちゅん

んん

んん

んん  
んん



おっぱい... ぽろぽろ...

おっぱい... ぽろぽろ...

ぽろぽろ

ぽろ



わーわー

わーわー

わー

わー

わー

わー













おはよう









はてしなく

はてしなく

はてしなく

はてしなく

はてしなく



...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...









パルム♡

下着...



びびびび

うんぬん

びびび

ズン



ちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

ちゅっ

はちゅっ

ちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

ちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

はちゅっ

ズチュッ

ズチュッ  
ズチュッ  
ズチュッ



トクシ

ドキ

ドキ

ドキ

?





は...♡♡♡♡♡

は...♡♡♡♡♡

は...♡♡♡♡♡

は...♡♡♡♡♡

は...♡♡♡♡♡

は...♡♡♡♡♡





ビクビク♡  
ビク♡

はなはな♡

はなはな♡

はなはな♡

あはは♡

はなはな♡  
はなはな♡  
はなはな♡



はなはな♡

はなはな♡  
はなはな♡





はあ

はあ

うきうき

うきうき...





ツク

ビク

あんなあんな

あんなあんな

あんなあんな

ズキズキ

ズキズキ

ズキズキ

ズキズキ





おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ



はっちゃん

はっちゃん

はっ

はっ

はっ

はっ













あは

あは

あは

あは

あは



こり♡  
こり♡

おちがっ  
おちがっ





...

びんびん  
だだだだ  
だだだだ



710  
710

くちゅ



きゅん♡

むわぁ...



カカカカ

ちゅ♡♡

♡



Ah...

31

31





は...♡♡♡

は...

は...♡

は...

は...

は...

は...



ピクピク

♡♡♡

びび〜

ピクピク





ドキドキ...

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ







ガガガ

...

...

ゴキウチ  
♡♡

チンチン  
♡♡

ズキーン♡





グズパツ!!!

カッ

ムムム

おっおっおっ

おっおっ

おっおっおっ

おっおっ





ク  
ン  
ッ







はっはっ

はっはっ  
はっはっ  
はっはっ

はっはっ

はっはっ  
はっはっ

はっはっ

はっはっ...♡

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ



大好き♡

大好き♡

大好き♡

♡

♡



好き♡

好き♡

好き♡

好き♡

好き♡

